

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が5月31日まで延長されることが先日決定されました。安倍総理より記者会見の場で、5月14日をめどに解除が前倒しされる可能性についての言及がなされましたが、学校は5月31日まで臨時休校を継続することにしました。もちろん状況が変化すれば休校期間がさらに延長あるいは短くなる可能性が全く無いわけではありません。生との皆さんそしてご家族の皆さんは様々な不安や心配を抱えた中で、感染拡大をくい止め「コロナ禍」を収束させるため我慢と忍耐の日々がまだ当分続く事になります。

コロナウイルスの感染拡大で在宅勤務やテレワークが世間の注目を集めています。しかしながら教員の仕事は「現場」で生ととじかに接することで成り立つ部分が多いのではないかと考えます。在宅勤務・テレワークだけでは教員の仕事を十分にカバーできないのでしょうか。私たち教職員は休校中WEB授業の配信、メール、電話など間接的にしか皆さんとコミュニケーションを取ることができません。休校中に生との皆さんの学力、体力、精神力の成長を十分にサポート出来ない事をもどかしく思っています。教職員一同休校が解除され生との皆さんが登校する日がくることを心待ちにしています。

4月23日ニューヨーク在住の卒業生(30期生)から一通のメールが送られてきました。彼はニューヨークにある病院で医者として働いています。ですから彼は世界で最も新型コロナウイルスの感染者が多いところで感染者の治療にあたっている医者の一人なのです。

(以下送られてきたメールです)

「一か月前に最初の患者さんが入ってきてから今は病院の8割のベッドがコロナの患者さんになるのはあっという間でした。アメリカの患者さんの半分以上がニューヨーク州でその半分以上がニューヨーク市そしてその三分の一がクイーンズ区です。集中治療室も病院中に仮の部屋に呼吸器を入れて臨時的集中治療室にしています。とても重症な患者さんが多いのでいつもの集中治療室のような平静さがなくなっています。でも患者さんの総数はここ数日横ばいで少し希望がでてきました。病院を退院した患者さんがいるとビートルズの“Here comes the Sun”を鳴らしています。日本も他人事でなくなると思いますのでくれぐれも準備を怠らないようにしてください。」

送られてきたメールの文章をそのまま載せました。医療崩壊の現場で懸命に治療にあたっている彼には長文のメールを書く時間もなかったのではないのでしょうか。この短いメールを見ただけでも彼の置かれている大変な状況が分かるような気がします。クイーンズ地区には多くの移民や低所得者が小さな共同住宅に大家族で住んでいます。家庭内隔離ができないため特にこの地区に感染者が多いといわれています。コロナウイルスは人を選ばないと言われますが貧しい人、社会的弱者に感染者が多いことも事実なのです。「コロナ」によってアメリカが抱える社会問題の一つである格差の問題がクローズアップされたといえます。

私たちはいま、世界の歴史の転換点になる可能性もあるパンデミックの「現場」に遭遇しています。生との皆さんは是非世界で今起きていることに関心を持ってください。ニューヨークからの届いたメールも想像力を働かせて読めば、医療崩壊の現場で働く医療関係者の置かれている現実を身体感覚で受け止めることができますと思います。感染拡大を食い止めるため私たちは、自由に外出することや人と会うことが制限されています。しかしながら新聞や本を読み、SNS から情報を受け取り、さらに想像力を働かせることで、「現場」に行くことはできなくても、家に居ながら世界と繋がることのできるのです。

世界と繋がり自分を変えることができたならあなたは世界を変えることができます。生との皆さんはこの休校期間を使って自分を変えることで新しい世界を創造してください。